

## 第1回 独立行政法人農林漁業信用基金林業信用保証業務運営委員会 議事概要

### 1 開会の日時及び場所

- (1) 日時 平成28年3月24日(木) 10時30分
- (2) 場所 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル11階  
独立行政法人農林漁業信用基金 第3, 4会議室

### 2 出席者

#### 【運営委員】

一場委員、兼子委員、田中委員、根布谷委員、井上委員、丹治委員、中里委員、水上委員

#### 【信用基金】

堤理事長、石井副理事長、高野総括理事、飛山総括理事、井田理事、竹淵監事、富田監事

(オブザーバー)

#### 【主務省】

坂 林野庁企画課長

### 3 提出議案

平成28年度年度計画(案)について

### 4 議事経過の概要及びその結果

- (1) 議事に入る前に、委員会において運営規程を決定し、同規程に基づき運営委員の互選により井上委員が委員長に選出された。委員長は、一場委員を委員長の職務を代理する者に指名した。

- (2) 引き続き議事に入り、信用基金から資料に沿って説明がなされた後、審議が行われ、平成28年度年度計画(案)については、原案のとおり了承された。本計画(案)に関する各委員からの主な質問は以下のとおり。また、その他の事項として、信用基金の役割、計画に対して信用基金が取り組んできたことについて発言があった。

#### 【質問】

- ① 基金全体の事業費を中期目標期間中に24年度対比5%削減目標について、25年度以降どのくらい削減されているのか。
- ② 収支計画において16億円の損失計上の原因である21億円の引当金繰入とは何か。
- ③ 収支計画で16億円の損失計上となる中で、中期目標期間の最終年度に業務収支が黒字になるのか。
- ④ 優良保証先の確保について、優良事業体とはどのような先を考えているのか。
- ⑤ 宿舍の廃止について、現状はどのようになっているのか。
- ⑥ 情報セキュリティ対策についての取組み状況と障害が発生した場合の対応策いかん。

これらの質問について、以下のとおり説明がなされた。

- ① 事業費の24年度予算対比の削減実績は、25年度は47.9%、26年度は59.7%が削減となっている。
- ② 中期目標の策定時はリーマン・ショックや東日本大震災間近という社会情勢であったため、収支計画では保証残高は引続き伸びるという前提から、保証残高の増加に伴い引当金も増加すると想定し、各年度の増加部分が引当金繰入として当期損失となったもの。
- ③ 業務収支の黒字化でいうところの業務収支は収支計画のことではなく、保証料収入、回収金収入、政府交付金の合計額から代位弁済額を差引いたものを黒字化するというもの

の。

- ④ 林業は川下を中心に木質バイオマスや合板などの新たな需要が増えており、そのような需要に対応しようとする前向きではあるが融資機関から見て信用力が十分でない企業についても基金が信用補完できると判断した優良企業に対する保証と考えている。
- ⑤ 林業信用保証勘定が所有する宿舍については全員退去し、現状売却に向けて手続き中である。
- ⑥ 外部コンサルティングによる情報セキュリティ上の診断を受けるとともに、主務省との連絡体制の整備など事故発生等の対策に努めている。

**【意見】**

- 民間金融機関が直接融資することが難しい資金を供給するために行う基金の信用保証や情報提供などの取組みは、林業、木材産業の発展のために非常に重要であると考えている。
- 次回の運営委員会では、計画に対して信用基金が取組んだ努力の成果などの具体的な実績について提示して頂きたい。

5 閉会の日時 平成28年3月24日（木） 11時55分

以上